

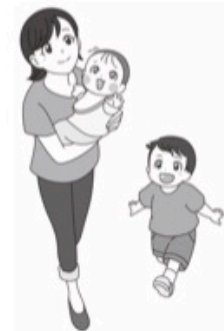
ことばはコミュニケーションの中で生まれ育つ

—ろう・難聴児教育のための言語学入門—

- 第1章 ことばはコミュニケーションの中で生まれ育つ
- 1-0 コミュニケーションとことばの発達段階
 - 1-1 ことば以前のコミュニケーション
 - 1-2 ことばの誕生期 (1歳前後～2歳半頃)
 - 1-3 多語文と文法の発生 (2歳半頃～幼児期)
 - 1-4 書きことばへの挑戦 (小学生以降)
 - 1-5 ことばの役割
 - 1-6 手話環境のちがいは子どもの手話にどう影響するか
 - 1-7 ろう・難聴児の「言語」の多様性
- 第2章 「コミュニケーションとことば」の言語学
- 2-1 二つのコミュニケーション・モデル
 - 2-2 語彙の発達—意味にことばのラベルを貼るということ
 - 2-3 ことばは使い回される
 - 2-4 ことばはなぜ多義語になるか
 - 2-5 ことばの「文法」とは
 - 2-6 言語と言語学の見直し
- 第3章 日本語と手話
- 3-1 日本語と手話の同じところ・ちがうところ
 - 3-2 文法のちがい
 - 3-3 写像性による手話の意味拡張の制約
 - 3-4 日本語・手話の2言語使用
 - 3-5 ろう学校で使われている手話—「日本手話」と「日本語対応手話」
- 第4章 ろう学校の日本語教育 その歴史と課題
- 4-1 「口話法」の無理とさまざまな打開策
 - 4-2 ろう難聴児の日本語獲得とろう学校の役割
 - 4-3 日本語の獲得とは
 - 4-4 生活言語と「学習言語」、話しことばと書きことば
 - 4-5 意味拡張と言語指導
- 終章 コミュニケーションの発展と日本語の発達

ろう・難聴児教育のための言語学入門

ことばは
コミュニケーションの中で
生まれ育つ



矢沢国光
ろう・難聴教育研究会

著者の紹介 矢沢国光
1939 静岡市生まれ。
1964 東京大学理学部卒業。
1970 都立足立ろう学校に教諭として勤務(中、幼)。
1977 トータルコミュニケーション研究会(現ろう・難聴教育研究会)結成に参加。
1989 ろう教育の明日を考える連絡協議会結成に参加。
現在 ろう・難聴教育研究会副会長

—本書の特徴—

- ① ろう・難聴教育の歴史、言語学の歴史が簡潔にまとめられていて、格好の入門書になります。
- ② コミュニケーションとことば(手話・日本語)はどのような関係にあるのか。ことばはどのように身についていくのか。ろう・難聴児にかかわる方々が、ふと立ち止まって考えるとき、ぜひ本書を手にとってみてください。きっと他の本に見られない発見ができます。
- ③ 端的に言えば、著者は「ことばは教えられない!」と主張しています。当然、次のような突込みを入れたくなります。「それをしなければ教員や親の義務が果たせない!」「学校の使命は何だ!」「私は毎日言葉を教えている(と考えている)!」本書で疑問を解消してください。決して理解困難な主張ではありません。目からうろこの主張です。
- ④ 本書は、南村洋子さんの著書から親の育児記録をたくさん引用して、子どものことばの発達が言語学的に解明されていきます。自分がかかわる子供の表現も同じように理解ができれば、きっと子どもとの日々のコミュニケーションの質がブラッシュアップされていくに違いありません。支援する側のコミュニケーション力の重要さに気付かされる本なのです。
- ⑤ 本書は、乳・幼児期から小学部低学年の子どもの言語獲得に焦点があてられていますが、その時期の子どもを担当する先生方だけでなく、すべての先生方、研究者、医療関係者、学生、保護者にも読んでいただきたいと思います。